

令和3年度 氷見市教育総合センターだより 第6報

第2回 教育総合センター運営委員会 1月19日(水)

本年度も皆様方のご理解とご協力の下、教育総合センターの事業を実施してまいりました。ご支援いただき、ありがとうございました。第2回センター運営委員会でいただきましたご意見の一部を紹介します。



○研修について

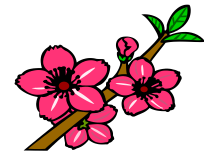
- ・オンラインで行われた教育セミナーは、同じ学校の仲間と共に受講でき、よい面もあった。
- ・若手教員研修会については、「若手を育てること」を目指し、今後も校長会が教育総合センターと手を携えて取り組んでいきたい。
- ・実践記録の書き方研修会に参加して、初めて一人で書いた。次年度も開催を希望する。
- ・幼保小接続研修会の回数を、重なり等も踏まえて減らしてもらうことになったのは、ありがたい。

○ICT教育の推進に向けて

- ・eライブラリの研修等、実際に触れながらの研修会がありがたかった。
- ・エルモ社の研修は、双方向で教えていただけてよかった。講師が元教員ということで、教員の視点から教えていただくことができた。
- ・プログラミング教材を教育総合センターから借りたところ、特に低学年の子供たちが興味関心をもって取り組んでいる。
- ・タブレットの持ち帰りについて、今後の方向性を示してほしい。

○外国語教育の推進に向けて

- ・「ENGLISHセミナー」に参加した子供たちがとてもうれしそうだった。
- ・ALTを確保していただき、大変ありがたかった。今回は日本語が通じないALTが多いが、専科教員を介したり身振り手振りを駆使したりして、コミュニケーションを図っている。



○その他

- ・次年度、11月の氷見市芸術文化館でのCHIKOさんの公演が楽しみである。
- ・中教研研究大会において、音楽科の授業と保健部会で指導助言をいただき、感謝している。
- ・学校で新しい仕事がどんどん増えるにしたがって、センターの仕事も増えていると感じる。思い切った業務の削減をし、センターの効力を上げていくとよいと思う。

第2回 氷見市いじめ問題対策連絡協議会

2月15日(火)開催

会議では、まず氷見市の生徒指導上の諸課題に関する現状やいじめ防止対策の取組等について説明を行いました。

その後の協議では、富山県教育委員会発行の「改訂版いじめ対応ハンドブック」の研修資料を使い、グループで事例検討を行いました。「児童生徒理解・アセスメント(見立て)⇒プランニング(手立て)⇒未然防止策」という流れで話し合いました。児童生徒や保護者の話をしっかりと聞くことや加害者の背景にも目を向けることが大切であるなど、それぞれの立場から様々な意見が出されました。

西部教育事務所指導主事 谷井貴征先生の助言では、事例について考える際のポイントを教えていただきました。複数の先生方のチームで児童生徒理解を深めること、加害者への指導・支援はいつまでに誰が何をするのかを明確にし、検証しながら進めること等、実際のいじめ問題への対応につながるお話でした。また、いじめ問題の未然防止に向けて、教師との信頼関係、児童生徒同士の人間関係を日頃から培っていくことの大切さも確認しました。



「とやまの子どもネット対策フォローアップ事業」

11月25日(木): 湖南小学校 11月26日(金): 十三中学校
講師: ソーシャルメディア研究会 チーフ技術指導員 竹内 義博 先生

児童生徒のネットトラブルの防止を目的とした「とやまの子どもネット対策フォローアップ事業」を湖南小学校、十三中学校で実施しました。

○ 湖南小学校 (11月25日)

5年生20名が参加し、講師の竹内先生から「正しく怖がり、賢く使う」というネットとの上手な付き合い方等を教えていただきました。先生の問いかけに積極的に発言するなど、ネットの危険性や自分たちのネットルールの改善点について考えようとする姿が多く見られました。



○ 十三中学校 (11月26日)



1年生26名が参加しました。竹内先生に教えていただいたネットとの上手な付き合い方を踏まえて、事前に行った生活アンケートの結果について気が付いたこと等をグループで話し合いました。自分自身の普段のネット利用について見つめ直すことで、改善点を意識し、実際の生活に取り入れていこうとする意欲が高まったようでした。

第2回 ICT教育推進プロジェクト会議

2月22日(火)

指導助言: 富山大学大学院教職実践開発研究科 准教授 長谷川 春生 先生

本年度のICT教育推進に関する取組について共通理解を図り、幅広く意見交換を行うため、ICT教育推進プロジェクト会議を開催しました。コロナ禍での開催となったため、県外の教育ソフト関連企業の方々にはオンラインでご参加いただきました。



会議では、センターからICT活用推進に向けた研修会等の取組について、市の担当者から今年度進めたICT環境整備等について説明した後、灘浦小学校澤武教諭に研修報告をしていただきました。その後のグループ協議では、各校のICT教育推進委員が研修の取組等について情報共有、意見交換を行いました。

全体協議では、xSyncやMicrosoftのOneNote、Whiteboard等のソフトのよさや難しさ、小学校低学年での文字入力や情報モラルに関する指導の必要性等、本年度の成果や今後の課題について多くの意見が出ました。また、教育ソフト関連企業の方々からも、今後の活用に向けての提案等をいただきました。ICT教育推進委員長、小中両校長会長からは、これまで積み上げてきた教育指導技術(アナログ的なもの)をどう生かしてICT活用を進めていくかが大きな課題であり、推進委員がリーダーとなってよりよい活用を進めてほしいと激励の言葉もいただきました。

長谷川先生からは、各校の取組について助言をいただくとともに、今後のICT活用推進に向けて、特に以下の点について教えていただきました。

- 今日の協議は、ICT機器を文房具のように使うことを目指し、使ってみたらこうだったというような、レベルの高い内容だった。
- 小学校での文字入力は、時間をつくって取り組むなど、工夫してほしい。
- 中学校では教科ごとに違いがあるので、同じ教科で単元や授業のねらいに迫るICTの使い方を研修していくのもよい。
- 県総合教育センター科学情報部でプログラミング学習の調査研究事業を行った。特に、音楽の授業等が参考になるので、HPで見てほしい。
- 文科省HP「StuDX Style」にも様々な実践事例が紹介されている。短い動画にまとめられているものもあるので、参考にして見てほしい。

本年度の成果や課題を生かし、今後もICTの効果的な活用に向けた取組を進めたいと考えています。

「ひみっ子の夢と希望」きらめき推進事業講演会

本年度は各中学校にて開催

氷見副市長 篠田 伸二氏による講演会 会場：北部中学校 11月19日（金）開催
南部中学校 12月17日（金）開催

マスコミ関係者として、篠田副市長にご講演いただきました。

海越しに見える立山連峰、新鮮でおいしい魚等、氷見市の素晴らしさを熱く語ってくださり、生徒にとっては日頃当たり前に見たり味わったりしているものの価値について、改めて考える機会となったようでした。また、「情報収集×決断=今の自分」という数式を示し、これからの人生を考えるに当たって、まずは情報収集をすることが大切であると教えていただきました。



<講演を聴いての生徒の作文より> 一部抜粋

- ・私はこの講演を聴いて、自分の未来を考えることができました。情報収集をして決断という流れになり、そのことが自分の未来をつくっていくということが分かりました。（北部中）
- ・「氷見の素晴らしさや、氷見で暮らしていることに自信をもってほしい」と聴き、こんなすてきなことを思える大人になろう、仕事に就こうと思いました。（北部中）
- ・氷見には世界トップレベルのものがたくさんあることに気付きました。これからの人生は、氷見市出身ということに自信をもって生きていきたいと思います。（北部中）
- ・今回の講演は、ラジオのような設定で面白かったです。また、その合間に篠田先生の実体験が聴けたのも楽しかったです。（南部中）
- ・私が篠田先生の講演で心に残ったことは、「言葉」についてのお話です。人の心に一番響くものは「言葉」だと改めて思うことができました。言葉を大切にして、真心のこもった言葉を使っていこうと思いました。（南部中）
- ・私が印象に残ったことは、篠田先生が紹介してくださったアランの言葉です。最近落ち込むことが増えてきて、ため息をつくことが多くなったと感じていましたが、篠田さんの言葉を聞いて、悲しいときこそ、楽観的な心を保つことが大切なのだと思います。（南部中）

フィッシュレザーブランド「tototo」野口 朋寿氏による講演会

会場：西の杜学園 12月17日（金）開催

鯛や鰯等の魚の皮を加工し、商品化しているフィッシュレザーブランド「tototo」の代表、野口氏にご講演いただきました。「海の恵みを無駄にしない、持続可能なものづくり」と題して、自身がこの職業を選んだきっかけから今後の展望までを、SDGsの理念も絡めながら語っていただきました。生徒たちは他県から富山大学に入学し、氷見市で起業した野口氏の話に興味深く聞き、積極的に質問していました。



<講演を聴いての生徒の作文より> 一部抜粋

- ・最も心に残っていることは、「なぜ？」を大切にするという野口先生の言葉です。「なぜ？」は新しい発見につながる大切な要素であり、知らないことが多い僕たちにはとても重要だと思います。
- ・「魚が好き」という思いで香川県から氷見に来られた野口先生はすごいなと思いました。僕も野口先生のように氷見を思う人になりたいと思いました。
- ・僕は今回の講演を聴いて、将来の仕事について考えることができました。また、17個のSDGsの中に自分たちができることが一つでもあると思うので、それについても考えていきたいと思いました。

西條中学校は、音楽関係者として、洗足学園音楽大学講師：瀬尾 宗利氏を招き、1月下旬に開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、中止となりました。

ふるさと教材「We Love HIMI!」の改訂

今年度は、初版本の原稿訂正や新規内容の追加を行い、「We Love HIMI! 二訂」を制作しました。

追加したページは、「竹ドームコンサート」「西の杜学園」です。また、「海浜植物園」では令和3年にリニューアルした新しい設備を紹介しました。令和4年度の5年生、中学校1年生、義務教育学校7年生に配本します。

共有フォルダに原稿、写真、音声のデータがありますので、配本されない学年の授業やプレゼン資料の作成等にご活用ください。



第2回 幼・保・小接続教育研修会

1月18日(火)開催

講師 西部教育事務所 指導主事 横山 恵 先生



本研修会は、氷見市子育て支援課と合同で開催しています。今回は、校区ごとに今年度の取組のまとめを行うとともに、次年度に向けての課題を共有し、講師の横山指導主事からアドバイスをいただきました。

次年度は、内容の重なりを考慮して、参集する研修会を精選します。

これまで以上に校区ごとの連携を重視して、各幼稚園・保育園・小学校の実態や地域の実情に応じた実践的な取組を推し進めていくことが大切です。

<連携から接続へと発展する過程のおおまかな目安>…… 研修会後のアンケートでは

ステップ0:連携の予定・計画がまだ無い。

ステップ3以上が70%でした

ステップ1:連携・接続に着手したいが、まだ検討中である。

ステップ2:年数回の授業、行事、研究会などの交流があるが、接続を見通した教育課程の編成・実施は行われていない。

ステップ3:授業、行事、研究会などの交流が充実し、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている。

ステップ4:接続を見通して編成・実施された教育課程について、実を踏まえ、更によりよいものとなるよう検討が行われている。

幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(文部科学省「調査研究報告書」H22)より

おすすめ図書の紹介 一今年度の貸し出しは86冊になりました!-(2月現在)

教育総合センターには月刊誌が豊富にそろっています。毎月タイムリーな特集が組まれており、バックナンバーも揃っていますのでぜひご活用ください。

■初等教育資料・中等教育資料……文部科学省の教科調査官が中心となって執筆されています。

■生徒指導……ネットトラブルや不登校への対応等、重要な課題と向き合える内容です。

■道徳教育……11月号の特集「名言で語る説話・Best selection」は、大変参考になります。

■教職研修……学校現場の挑戦に勇気とアイデアをもらえる月刊誌です。創刊50周年を迎えました。

■総合教育技術……学校管理職と中堅教師のための教師総合誌です。

コロナ禍での学校教育力を高める特集が豊富に組まれています。

■月刊学校教育相談……一人一人の子供を見つめ育てる視点から、具体的なヒントをもらえます。

■指導と評価……指導に生かす評価の月刊誌。Q-Uをはじめ自己評価や学習評価等の具体例が満載です。

■白熱する教室……教育セミナーでご講演いただいた菊池省三先生監修の「菊池道場機関紙」です。

★新着図書……「教師にできる自殺予防 子どものSOSを見逃さない」高橋 聡美(中央大学客員研究員)